

平成25年度 第1回 豊田市行政経営懇話会 会議録

【日時】 平成25年6月24日（月）午前10時00分～午後0時00分

【場所】 豊田市役所南52会議室（南庁舎5階）

【出席者】（委員） 足立 潔重 （連合愛知豊田地域協議会副代表）
宇野 幸伸 （あいち豊田農業協同組合代表理事専務）
川合 泰宏 （豊田市PTA連絡協議会）
川合 雄造 （豊田青年会議所理事長）
澤田 恵美子 （豊田市消費者グループ連絡会会長）
清水 元久 （豊田市森林組合代表理事組合長）
千葉 晃嗣 （豊田市ボランティア連絡協議会監事）
三浦 和久 （豊田市区長会副会長兼会計）
三崎 祐子 （豊田市ファミリー・サービス・クラブ会長）
村林 聖子 （愛知学泉大学現代マネジメント学部准教授）
山崎 丈夫 （愛知学泉大学附属コミュニティ政策研究所
客員研究員）《会長》

（計11人）

太田 稔彦 （豊田市長） 議事（1）に出席

【欠席者】（委員） 杉山 恵美 （豊田市国際交流協会
ボランティアグループひらがなういずゆー）
西原 香保里 （愛知みずほ大学人間科学部教授）
星山 いく子 （市民公募委員(株)アンジュクール代表取締役）

【事務局】 畔柳 寿文 （総務部長）
塚本 誠 （総務部副部長）
竹内 寧 （総務部行政改革推進課長）
柘植 孝悦 （総務部行政改革推進課副課長）
折原 亜矢子 （総務部行政改革推進課主査）

【次第】 1 開会
2 総務部長あいさつ
3 会長あいさつ
4 新委員及び事務局の紹介
5 議事（1）市長との意見交換（市政全般について）
（2）まちづくり基本条例戦略プランの取組実績について
【報告】
（3）地域経営戦略プランの策定及び推進体制について
【報告】

（文責は事務局。訂正することがあります。）

【総務部長あいさつ】

- ・ 蒸し暑い日が続く中、ご参加ありがとうございます。
- ・ 本日の行政経営懇話会の案内は、総務部から出させていただいています。昨年度までは総合企画部で所管をしておりましたが、この4月に組織機構改革を行い、総務部の行政改革推進課で懇話会を所管することとなりました。
- ・ 今回、これまでの「行政経営」という考え方から「地域経営」に考え方を広げて、地域の皆さんと一緒にこの地域を作っていくというので、発案をしたところです。また、それに伴い、この審議会の名称についても、「行政経営懇話会」から「地域経営懇話会」に変えていくということで、6月の議会において提案をさせていただいているところです。
- ・ 地域経営戦略プランについては、昨年度この懇話会にて議論をさせていただいているところですが、出来上がった冊子を送付させていただいております。
- ・ 今年度も、委員の皆様の活発なご議論をお願いします。

【会長あいさつ】

- ・ 行政経営懇話会も、3年任期のうち3年目の任期の年です。今年度は2回程度の開催を予定していますが、我々の役割がしっかり果たせるようにしっかりと議論していただきたいと思います。

【新委員及び事務局の紹介】

- ・ 事務局から新委員の紹介と事務局職員の紹介

【市長あいさつ】

- ・ お忙しいところありがとうございます。本日は意見交換会よろしくをお願いします。

【議事（1）】市長との意見交換（要約）

（委員の意見）

- 少子高齢社会が進展する中で、将来に渡ってセーフティネットを維持していくために社会保障施策がますます重要となってきます。将来の子ども世代にツケを残さないためにも、社会福祉の制度維持が必要だと思えます。市においても、そのような点を大事にして仕事をしていただきたいと思います。
- 経済環境が上向きと言われてはいますが、まだ労働者には実感がなく採用、雇用が厳しい状況が続いています。様々な施策を市でも展開されているかと思いますが、引き続き取り組んでいただくと共に、定年後のセカンドステージの雇用についても、よろしくお願いします。
- 経営という言葉については、10年ほど前に鈴木公平市長から聞かせていただきましたが、行政が経営するというのは新鮮な言葉でした。それがずっと続いていることで、とても良いことだと思います。公務員の給料について、削減しないと名言していますが、まだまだ迷いのある自治体が多い中で、大変良いご決断だったと思います。経営については、職員のモチベーションが高くないと続かないということが一般的です。豊田市においては、国が方針を出した中で、給与削減ではなく、他の面で様々な削減をしているということで、素晴らしいことだと思います。国の方針と異なった判断をすることで、国や県からの補助のデメリットがあるのか、そのあたりを教えていただきたいです。
- 教育対話集会という先生方と父母の集まりにおいて、子どもたちを取り巻く環境について意見交換を行いました。携帯電話等を通じた情報の氾濫や不審者、いじめなど、ま

だまだ現実として不安要素がたくさんある状況です。子どもの健全育成について、さまざまな事業を行っていただいているかと思いますが、今後とも力を入れていただきたいです。

- 地域の中で、防災に対する意識はそれほど高くない状況です。自分は地元で消防団活動をしていますが、団員の減少、高齢化が問題になっています。現在は団員の募集は団で行っていますが、減少に歯止めがかからない状況が続いています。何とか行政の力を借りながらPRし、若い人への防災意識向上につなげていければと思いますのでよろしくお願い申し上げます。
- ごみの減量化や食育、エコライフなど、市民が直接行動する施策について、市民は言葉としては理解していますが、どう行動していけばよいのか浸透していないのではないかと感じます。市内にはそういう問題に長けた団体がたくさんあります。市役所の職員は、そういった団体と連携して、どんどん市民の中に出向いていくことが必要だと思います。
- 食育の課題について、行政の取組が目に見えないので漠然としているように感じます。子どもは家族と一緒に食事を取ることが重要です。19日を食育の日としていますが、言葉だけにならないように、職員も定時に退庁して家族でご飯を食べてほしいと思います。また、学校給食においては加工品だけでなく、野菜なども地産地食で取り組んでいただきたいと思います。
- 防犯カメラの設置について、このご時勢においてとても良い施策であると思います。街中も重要ですが、山間地域でも農機具などがかなり窃盗にあっている状況です。できるだけ早く進めていただきたいと思います。
- 豊田市は、駅前の再開発の話や豊田スタジアム等、ハード面の発展は素晴らしいと思います。一方で、人の豊かさ等ソフト面の発展については、先進地と比べるとまだまだ遅れているのかなと思います。ボランティアや福祉の現場においても、発展の余地があると思いますので、今後力を入れていっていただきたいと思います。
- 市役所品質の確立について、号令だけではなく魂を入れてやってほしいと思います。
- 地域会議では、なかなか市長の想いに到達できないジレンマを持っています。会議自体は真面目に行っていますが、わくわく事業の申請件数も少ない状況で、日々思い悩んでいます。
- 実際市民の細かい問題については、区長が一番分かっていると思っています。直接悩みを聞けば市民がどのような困りごとを持っているかが分かるので、是非市民の悩みを聞く会を開いていただきたいと思います。
- 障害者の移動支援をするにあたり、職員の方々にはいつも親切丁寧に対応していただいて感謝しています。ある駅の階段昇降について、今は駅員さんが対応してくださっていますが、エレベーターの設置についてご検討いただければと思います。
- 行政では、縦割りが楽な部分がどうしても出てきてしまいますが、豊田市では横につながり努力をととても大事にされていると思いますので、今後も大切にしていきたいと思っています。
- 指定管理者などで、施設をアウトソーシングする際に、単なる施設管理になってしまい、長年施設を使っている地元住民が公平性の名のもとに切り捨てられていく事例が他市で多く発生しています。そのあたりをどういった形で乗り越えていくのが行政に求められていると思います。
- 豊田市が地域経営体として進んでいく上で、住民がいかに主体になってそれを進めていくかということが軸になると思います。そのためにも、地域自治システムの発展が重要です。総務省でも、地域のプラットフォームをどう持つかという問題提起をしているところです。地域で様々な活動している人々の力がまとまっていくことが必要です。そのう

えで地域経営システムが成果をあげていくのだと思います。

(市長)

- できるだけ子どもたちにツケを残さない対策が必要だと思います。社会保障制度については、市の立場でいけば、できるだけ借金を作らないということです。リーマンショック後、少し借金を作りすぎていましたので、景気が回復してきましたら、できるだけ借りない体質へ変えていく必要があると思います。
- 子どもの問題については、地域の中で大人が健全に暮らすことが、子どもの健全な成長につながると考えています。教育委員会を中心に、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。
- 消防団については、行政としては活動しやすい環境整備をやらせていただいています。また、東日本大震災では、消防団が大変厳しい立場に置かれるという情報もきていますが、そんな中熱心に活動していただき非常にありがたいと思っています。
- エコライフや食育について、おっしゃるとおり行政職員の限られた人数では出来ることは限られています。職員が出来るのは計画などで方向性を確認するところまでで、具体的な活動は、市民とどう連携が取れるかが重要だと思います。
- 地産地食について、ネックは計画的に食材が確保できるかどうかです。特に給食センター方式でやっている豊田市においては、イベント的にはできても年間通じての実施は難しいです。できる範囲で手を打っていききたいと思います。
- 防犯カメラについては、市が直接手をかけるのは市の施設で必要性の高いものであり、市民のみなさんが必要と思われるものについては、補助金を出しています。豊田市の場合は、プライバシーの問題もあって一般を映し出す防犯カメラは考えていません。
- ソフト面が発展していないとは私は思っていないですが、豊田市は、他の自治体と違ってヒーローやヒロインが生まれにくい土地であるとは思っています。シンボリックに情報が伝わってくるとあたかも全体がうまくいっているように見えますが、豊田市の情報の出し方はそうではありません。他の委員の方のお話にもあったように、市内では様々な活動している団体や市民の方がたくさんいらっしゃいますので、もっと効果的に情報を流すことはすべきかと思っています。
- 今、自分も27の地域会議すべてに出向いていってお話をさせていただいていますが、地域会議の形は27通りで、地域に合った形でやっていただきたいと話をしています。引き続きよろしくお願ひします。悩みを聞く会はぜひやらせていただきたいです。
- 駅の財産については、申し訳ないですが市ではどうにもならない部分があります。高齢化に伴うバリアフリー化の問題は、駅だけに限らない話ですので、課題としてはしっかりと認識していますのでご理解ください。
- 横のつながりは常に意識していきたいと思っています。
- 指定管理については、今年から来年に向けて大幅な見直しを行いますが、例えば豊田市自然観察の森の近くには、ラムサール条約の登録湿地があり、現在指定管理を請け負っている日本野鳥の会が積極的に施設管理だけでなくソフト重視でやっていただいています。それを、コスト面だけで業者を変えて一からやっていくようなことでは良くないと思っています。このように、施設によっては単純に判断しないほうが良いところもあると思いますので、しっかりとやっていきたいです。
- 行政経営体でも共働の部分を含んでおり、そういった意味では以前から地域経営体を目指していたのかもしれませんが、合併後10年経過し、地域自治システムや地域会議の実績が積み重ねられてきた中で、共働というところをクローズアップして、行政の改革と共働とをしっかりと柱立てをした見せ方をした方がよいということから、地域経営体という言葉

い方に変えさせていただいています。

- 地域のプラットフォームと地域会議との関係性についてですが、地域会議には3つパターンがあります。1つは区長会がまったく関わらずに単独で地域会議が構成されているケースです。そこでは、熱い思いを持った方がいるうちは良いですが、そういった方がいなくなると難しくなるように感じます。2つめは、区長さんが入っていますが対立している雰囲気の場合で、熱い思いを持つ方がいる一方で、それを一步引いて見ている方がいるという場合です。こういったところも難しいように思います。一番良いのは、現役の区長と一緒にあって会議を行っているところです。そういったところであれば、地域会議が地域の円卓会議を担えるのではないかと思います。また、その際に今のようにわくわく事業の審査で忙しいという状況であれば、難しいと思いますので、そういった場にする必要があると思えば、地域会議の役割からわくわく事業の審査を除く必要があるかもしれません。そうすることで、地域のことをゆったりと議論する時間が出来ればと思います。
- 給与削減については、お叱りのご意見は全くありませんでした。議会も納得した上で、進めていけるのではないかと思います。国や県の今後の反応については分からないですが、県については減らさないと言っている中で、ここにきてまた下げるといった話はないのだろうと思います。また、豊田市に対してどうこういう部分はないと思いますが、引き続き、給与の適正化については検討していきたいと思います。また、市役所品質の向上として、一人ひとりの職員がしっかりと仕事の質を高めていくことも必要だと思えます。

(会長)

- まだ時間もありますので、その他市政全般について市長から何かありますか。

(市長)

- リーマンショック以降、自動車産業を中心に元気がないところから上向いているとは言われていますが、国内販売が落ちたままであるという現状に加え、東日本大震災以降国内の生産体制についても厳しい状況がこの先も続いていきます。ただし、豊田自動車の方針としては、研究開発については下山の研究開発施設を中心として、市内に集約しようという動きだと思うので、生産の現場としての車の街というよりも、研究開発拠点としての車の街という顔が強まってくるのだろうと思います。豊田市のまちづくりについても、そういった意味で市民のみなさんに対してニーズに答えることが必要になってくるのではないかと思います。
- また、合併後10年が経つので、一度評価をしてみようという話の中で、豊田市は、都市部と中山間地がひとつの自治体の中でまるで日本の縮図のように共存している地域ですので、それを豊田市としてどう評価するのかという問題があります。都市部には都市部の色々な良い面がありますが、かなりの割合を占めているサラリーマンのみなさんが退職後どのような暮らし方をするのかという問題もあります。一方で中山間地域では、過疎化等の弱みはありますが、亡くなるまで色々な暮らし方があるという利点もあります。一つの自治体の中で、産まれてから亡くなるまで色々な暮らし方があるこの街の中で、どのような暮らし方ができるか検討してみたいと思います。

【議事（２）（３）】

○会長

- ・何か意見があればお願いします。

○委員

- ・資料２の組織図のところ、共働推進委員会については地域支援課が所管となっていますが、私は例えば指定管理も共働の一つだと思いますので、共働の委員会の所管が地域支援課だけでいいのかという部分が疑問に思います。

○事務局

- ・共働推進委員会については、昨年度までは共働推進会議という名称で、地域会議や共働事業提案などを協議してきました。その所管が地域支援課で、これは引き続き行っています。指定管理については、指定管理者選定委員会を設けており、そちらで検討する予定です。

○委員

- ・豊田市の共働の考え方はとても素晴らしいとっていて、豊田市であれば指定管理についても、共働という視点から考えられるのではないかとということで発言しました。合理性を重視するあまり、共働の部分を忘れないでいただくと良いです。

○事務局

- ・指定管理についても共働の考え方の中に含まれていると考えています。また、指定管理の選定委員会には社会部から２名委員として入っており、意見を言う場はあります。また、豊田市では施設管理だけでなく、設置目的を果たせるかを重視していますので、自治区が指定管理になっているケースがたくさんあります。また、地域スポーツクラブがある地域について、運動施設についてはできるだけスポーツクラブにお願いしています。そうでない広域の施設については、公募はかけていますが、できる部分は地域でやってもらうという方針です。

○会長

- ・ありがとうございました。今後とも、この懇話会の議論を充分生かせるように進めていただければと思います。

（終 了）